

令和 4 年

決算審査特別委員会記録

令和 4 年 9 月 9 日

東伊豆町議会

## 決算審査特別委員会（第1日目）記録

令和4年9月9日（金）午前10時40分開会

### 出席委員（11名）

1番	楠山節雄君	2番	笠井政明君
3番	稲葉義仁君	5番	栗原京子君
6番	西塚孝男君	7番	須佐衛君
10番	内山愼一君	11番	藤井廣明君
12番	鈴木勉君	13番	定居利子君
14番	山田直志君		

### 欠席委員（なし）

### その他出席者（なし）

### 当局出席者（11名）

総務課長	村木善幸君	総務課長補佐 兼庶務係長	鈴木文昭君
総務課長 行政係長	遠藤尚男君	総務課長 財政係長	太田正浩君
総務課長 財政係長 主任主事	横山潤君	企画調整課 企画課	森田七徳君
企画調整課 課長補佐 兼検査係長	松村悟君	企画調整課 情報係長	岩崎名臣君
企画調整課 管財係長	中田光昭君	企画調整課 地域振興係長 兼企画係長	山田勝之君
会計課長	正木三郎君		

### 議会事務局

議会事務局長	福岡俊裕君	書記	榊原大太君
--------	-------	----	-------

開会 午前10時40分

○臨時委員長（鈴木 勉君） 皆様お疲れさまでございます。

それでは、ただいまより決算審査特別委員会を開催したいと思います。

東伊豆町議会委員会条例第9条第2項の規定に基づきまして、私が臨時委員長の職務を行います。

どうぞ、よろしく願いをいたします。

ただいまの出席委員は11名で、委員会定数の半数に達しております。よって、決算審査特別委員会は成立いたしましたので、開会をいたします。

直ちに本日の会議を開きます。

これより委員長選挙を行います。

暫時休憩をいたします。

休憩 午前10時40分

再開 午前10時45分

○臨時委員長（鈴木 勉君） それでは、休憩を閉じ再開をいたします。

お諮りします。委員長の選挙は、指名推選にしたいと思います。御異議ありませんか。

（「異議なし」の声あり）

○臨時委員長（鈴木 勉君） 御異議なしと認めます。したがって、臨時委員長が指名することに決定をいたしました。

委員長に須佐 衛君を指名いたします。

ただいま臨時委員長が指名いたしました須佐 衛君を委員長の当選人と定めることに御異議ありませんか。

（「異議なし」の声あり）

○臨時委員長（鈴木 勉君） 異議なしと認めます。よって、ただいま指名いたしました須佐 衛君が委員長に当選されました。

ただいま委員長に当選されました須佐 衛君が本委員会に出席しておりますので、本席よ

り告知いたします。須佐 衛君に委員長就任の御挨拶をお願いをいたします。

須佐君、どうぞ。

○委員長（須佐 衛君） 今、指名され大変恐縮しておりますけれども、滞りなく議事が進められるように努めてまいりたいと思いますので、皆様の御協力をお願いしたいと思います。

○臨時委員長（鈴木 勉君） ありがとうございます。

それでは、委員長を交代いたします。暫時休憩いたします。

休憩 午前10時47分

再開 午前10時49分

○委員長（須佐 衛君） 休憩を閉じ再開します。

これより副委員長選挙を行います。

暫時休憩します。

休憩 午前10時49分

再開 午前10時52分

○委員長（須佐 衛君） 休憩を閉じ再開します。

お諮りします。副委員長の選挙は指名推薦にしたいと思いますが、御異議ありませんか。

（「異議なし」の声あり）

○委員長（須佐 衛君） 御異議なしと認めます。

お諮りします。指名の方法については、委員長が指名することにしたいと思います。御異議ありませんか。

（「異議なし」の声あり）

○委員長（須佐 衛君） 御異議なしと認めます。したがって委員長が指名することに決定しました。

副委員長に、定居利子君を指名します。

ただいま委員長が指名しました定居利子さんが副委員長の当選人と定めることに御異議あ

りませんか。

(「異議なし」の声あり)

○委員長(須佐 衛君) 御異議なしと認めます。よって、ただいま指名しました定居利子さんが副委員長に当選されました。

ただいま副委員長に当選されました定居利子さんが本会議に出席しておりますので、本席より告知いたします。

定居利子さんに副委員長就任の御挨拶をお願いします。

○副委員長(定居利子君) ただいまご推薦いただきました定居です。

委員長を補佐してということのほか、議事進行がスムーズに行われるように委員長のほうを補佐していきたいと思えます。また、皆さんも御協力のほどよろしく十分にお願ひしたいと思えますので、本当によろしくお願ひいたします。

○委員長(須佐 衛君) よろしくお願ひいたしたいと思えます。

暫時休憩します。

休憩 午前10時54分

再開 午前10時54分

○委員長(須佐 衛君) 休憩を閉じ再開します。

日程の確認をしていきたいと思えますが、今お手元に決算審査特別委員会予定表というのが配付されているかと思えます。本日午後に総務課から始まりまして、企画調整課、明日月曜日は朝9時半から税務課、住民福祉課、建設整備課、防災課、教育委員会の順で行っていく予定になっております。

3日目、13日火曜日は観光産業課、農業委員会事務局、健康づくり課、国民健康保険特別会計、後期高齢者医療特別会計、介護保険特別会計、幼児教育特別会計となっておりまして、最終日に稲取財産区特別会計、風力発電事業特別会計、水道事業会計の順になっておりまして、この予定で進めたいと思えます。それで、御異議ありませんでしょうか。

(「異議なし」の声あり)

○委員長(須佐 衛君) 異議なしと認めます。では、このように進めさせていただきます。

各委員の皆様におかれましては、発言する際は必ず手を挙げ、委員長の指名の下に発言す

るようお願いします。質問は簡潔かつ明確に、決算の内容についてされるよう御協力をお願いします。一般質問のような形は御遠慮願いたいということでございます。また、議事整理の都合上質問は1回につき2問以内とし、質問箇所のページを告げてから質問するようお願いします。

以上、よろしいでしょうか。

(「はい」の声あり)

○委員長(須佐 衛君) 暫時休憩します。

休憩を閉じ、再開します。

この際、午後1時まで休憩いたします。

休憩 午前10時57分

再開 午後 1時10分

○委員長(須佐 衛君) 休憩を閉じ再開します。

本委員会に付託されました議案第39号 令和3年度東伊豆町一般会計歳入歳出決算認定についてを議題とします。

これより質疑を行います。

質疑の対象を総務課、選挙管理委員会とします。

質疑ありませんか。

○1番(楠山節雄君) 決算書を見ると、コロナ禍の影響もあってだと思えるんですけども、不用額が結構やはり多く出ています。その中でも50ページの7節の報償費、4,529万2,285円という結構全体予算の中で4割ぐらいが消化しきれていないという内容になっています。前年度も7,200万ぐらいの中で3,200万ぐらいの不用額が出てきているんですけども、この辺はそのコロナの影響も含めてなのかどうか、内容を教えていただけませんか。

○総務課長(村木善幸君) ただいま楠山委員のページ50ページ、報償費の不用額について、不用額の内容について御説明をさせていただきます。

こちらの不用額につきましては、昨日の令和4年度補正予算でも説明をさせていただきましたが、ふるさと納税の返礼品の関係になります。返礼品につきましては、年度をまたぐものが、かなりの金額がございまして、内容的には宿泊券です。年度内に使用できなかった宿

泊券だったり定期便など、この辺がちょっと執行できなかったということで不用額を計上させていただきます。その分を令和4年度で補正、清算措置ということで計上させていただきます。以上でございます。

○1番（楠山節雄君） 了解です。では、委員長、続けていいですか。

すみません、ちょっと飛んで申し訳ありませんけれども、成果表のほうのページ5ページ、4ページから5ページにかけて職員関係の人数が記載がされています。5ページの会計年度任用職員の中で運転手が2名ということで記載がされているんですけども、今回保育園、幼稚園の痛ましい事故が起きたりして、この運転手が2名体制で行われているのかな、下に学校給食センターの運転手というのは別に設定がされているんですけども、幼稚園児等の送り迎えも含めて運転手は2名の内容になっているのか、それとも正規職員の中でその運転手ということができる職員がいるのか、この辺のちょっと内容を教えていただけます。

○総務課長（村木善幸君） ただいま楠山委員さんの運転手、会計年度任用職員の運転手の関係なのですが、資料を御覧いただきますと、企画調整課運転手2名ということになっています。こちらにつきましては、役場のOBの方なのですが2名が会計年度ということで勤務をされております。勤務実態につきましては、大川地区からの小学校の小学生の送迎、あと、幼稚園の白田、片瀬地区からの送迎ということで、会計年度任用職員につきましては企画の2名なんですけど、正職員ということで教育委員会のほうに職員が技能労務職ということで1名配置されておりますので、基本的にはこの3名体制ということで対応している内容となります。それから、ちょっと事故の関係があったかと思うのですが、その辺のチェック体制につきましては教育委員会のほうで聞いていただければしっかりした対応をされていると思いますので、そちらで申し訳ございませんが確認をしていただければと思います。よろしくお願いたします。

○1番（楠山節雄君） 前年度のときも何か同じような質問を私、しているのかなと思うんですけども、企画のほうで任用職員2名、それから教育委員会で技能職のほうで1名、3名体制だということですけども、じゃ、この方たちが例えばインフルエンザ、コロナの感染症になったりしたときにその対応可能というか、例えば誰もいなくなってしまうという場合もあると思うんですけども、そうした場合にこれらをフォローするという体制というのはできているのかな。

○総務課長（村木善幸君） すみません、今年の体制なんですけど、給食センターにいた運転手の方を総務課付で任用いたしまして、そちらでちょっと欠員というか対応が必要になったと

きには総務課付の運転手さんにも、今年度からなんですが対応するような体制となっております。

○1番（楠山節雄君） 委員長、いいですか。

○委員長（須佐 衛君） 2回まで、同じ内容の質問ですか。

○1番（楠山節雄君） 同じ内容です。

○委員長（須佐 衛君） では、これに限ってください。では、1回だけ。どうぞ。

○1番（楠山節雄君） 2回でしたか。あ、すみません、申し訳ない。

総務課のほうで、例えばマイクロ、大型特殊的な感じの資格になると思うんですけども、そうした調べみたいなのというのは職員の中にこういう資格を持った人がいるよという調査というか、その辺の資料的なものは総務課のほうで持ち合わせをしているのかどうなのか、それによって急遽、もう本当に3人駄目だったときにはそういう人たちの活用というのを考えていかなければならないのかなとは思うんですけども、どうでしょう。

○委員長（須佐 衛君） 今年度の対応というか、3年度。

○総務課長（村木善幸君） 職員のその運転の資格につきましては、調査する必要があるなどというふうには感じておりますので、検討はしておりますのでそのように今後進めていきたいと考えております。実施予定ということです。

それから、大型のバスが運転も必要なのですが、幼稚園、小学生も少ない場合には普通車での対応も可能であろうかと思っておりますので、基本的にはまずは教育委員会で対応していただいて、足りない部分を他課に応援を求めるといって、そういう体制で行きたいと思っております。

○1番（楠山節雄君） 了解です。すみません。

○委員長（須佐 衛君） ほかにありませんか。

○1番（楠山節雄君） ないようでしたら、ちょっとつなぎ的にまた申し訳ありません。

成果表の9ページですけども、これは職員の一人1アイデアというのは総務課のほうの担当でよろしいですか。

前年度のときには、そこに記述がされているんですけども、アイデアボックスみたいなものが設置がされて、職員がそこにアイデアを投稿するという記述に前回なったと思うんですけども、今回その辺の記述がされていませんけれども、アイデアボックスについてはずっと継続をして行っていくという考え方で、箱のその投稿だけで、何だろう、職員全体を集めてアイデアボックスにぜひ、アイデアボックスを活用してほしいみたいな、そういう啓発みたいなものというのはやっているのかな。



○総務課長（村木善幸君） ボックスというイメージが、物理的な箱ではなくて、ファイルというイメージで考えていただければよろしいかと思えます。そこに常にパソコンを使った形でそこにアイデアを提出していただくということで、アイデアにつきましては、もう、常時募集しているということは職員にも周知をしているような形になります。

○委員長（須佐 衛君） ほかにありませんか。

○3番（稲葉義仁君） 成果表8ページの行政改革推進事業のところで、直接ここに書いてあることではないのですが、趣旨の行財政改革について当局のほうで今も検討というか、いろいろなされているかと思えますけれども、この令和3年度まででどのような形で、どのような会議体で、どんな形でこの辺って検討されているのかなという点と、こういう言い方が適当かあれですけれども、これまでこの行財政改革の部分ってあまり議会に御報告いただけなかったところで、途中経過も含めて多くて、そのことでよく摩擦が生じていたようなところもあるかと思うのですけれども、その辺り、これはごめんなさい、ちょっと令和4年度以降の話になっちゃうかもしれないですけれども、ある程度議会にある御報告というか、協議の由というか、公開していただけるような考え方があるのかどうか、ちょっとその辺を教えてくださいいただけますでしょうか。

○総務課長（村木善幸君） まず、成果表に現れる部分につきましては、こちらにつきましては県内の状況であったり、そういったものを町のために取り入れようということで、そういったものに参加をさせていただいております。それから、行政改革の推進というか、これまでの取組なのですが、先日骨太の方針のときにもお話をさせていただいたのですが、今、町の基本となる計画がございませんので、来年度以降その新しい計画を策定する予定であります。それにつきましては、もちろん議会の皆様にも報告をしたいなと思っております。以上です。

○3番（稲葉義仁君） 続いて、すみません、ちょっとここにも絡むんですけれども、ここで、すみませんね、毎年。公会計について何度か、研修というか講義を受けられているようですが、ここと主要施策の成果表、12ページのところで公会計の整備事業ということでもありますけれども、帳票としての公会計の整備というのはあって、昨年も聞いて、なかなかここはただ、ややこしいので考え方というか、そういうものの周知がなかなか進めづらい部分があるようなことも伺っておりますが、この辺、令和3年度も特に変わりはないですかねというところをちょっと伺いたいのですが。

○総務課財政係長（太田正浩君） 令和3年度につきましては、町民向けに財政説明会や、そ

の資料を作りまして、その際にここでの公会計での固定資産台帳から出した老朽化率ですとか、それが類似団体と比べても東伊豆町は高いですよといったお話等もさせていただきました。そういったことができるのは、公会計で調べているからであります。なかなかちょっと細かいところまではちょっとできないところではあるのですけれども、そういったことで活用ということをお願いします。以上です。

○3番（稲葉義仁君） 意見になっちゃいそうで、この辺難しいんですけども、聞き流していただいてもあれなんですけれども、町民向けにこういういろんな情報を提供するのに便利で、いろいろ使えるよというふうには当然で、その辺の御活用をしていただくのと、町の財政をこれからどう考えていくかという部分で、やはり公会計って、この考え方ってなかなか上手に使える役に立つ考え方なので、ぜひ、職員への浸透とか周知というのも含めて今後考えていただければという個人的な意見でございます。

○委員長（須佐 衛君） ほかにありませんか。

○1番（楠山節雄君） ページ21の、成果のほうです、すみません。成果表の21ページの歳出決算の状況、ここの表の中で人件費の比率等が載っているんですけども、ずっと行財政改革の中で職員の人員削減を行って、構成比率、本当に低くなっているなどは思うんです。ただ、この辺で3年度が前年と比べていったら増加をしているんですけども、この辺については扶助費から始まって災害復旧費まで、その年度によってその金額が増減をすごい正しくしていくということの中で、安定的な数字ではないかなとは思うのですけれども、この辺ちょっと上がった要因は、そういう、ほかの投資的なものの増減によるものなのかどうなのか、増減が373万6,000円ですから、そんなに大きい数字ではないんですけども、その辺がそういう要因なのか、それと、東伊豆町はどうでしょう、県下の市町から比べてその辺の人件費の割合とか比率がどの辺の位置にあるのかどうなのか、その辺が分かったら教えてください。

○総務課課長補佐兼庶務係長（鈴木文昭君） ただいまの質問についてですけれども、人件費につきまして373万6,000円の増の主な理由になりますけれども、前年度と比べまして退職者への退職手当特別負担金というのがありまして、そちらの増額が主な要因となっております。また、令和2年度には行われなかった選挙等の立会人さんへの報酬ですとか、あと、各種委員会の報酬です。あと、コロナ関連の臨時的任用の職員の報酬、あと、会計年度任用職員の社会保険料額の増額等が主な要因となっております。以上です。

○総務課財政係長（太田正浩君） あと、県内等との比べて割合がどうかといったことであり

ますけれども、こちらも町民向けにお配りしたこのパンフレットの中で説明させていただいているのですけれども、職員数につきまして人口1,000人当たりで比べますと、本当に県内でも低いほうでありますし、職員給もラスパイレズ指数で見ますと県内で1、2番に低いということでもあります。ただ、当町は予算規模、全体の規模が小さいのでどうしても人件費の割合が少し高めには出てきてしまうといった状況であります。以上です。

○委員長（須佐 衛君） ほかにありませんか。

○14番（山田直志君） 167ページの実質収支に関する調査のところをお伺いしたいのですが、単年度収支も実質単年度収支もこのところは4億、5億って形で出ているんだけれども、実際の構成要因としての問題、状況をどのように把握しておりますか。

（「恐れ入ります、何ページですか」の声あり）

○14番（山田直志君） 167ページ。

（「決算書の」の声あり）

○委員長（須佐 衛君） 14番、すみません、もう一度質問内容を。調書に関して、ちょっと最後ちょっと聞き取りづらかった。

（「恐れ入ります、もう一度」の声あり）

○14番（山田直志君） いずれにしても、昨年もそうなんだけど、コロナという部分もあるんだけれども、単年度収支にしても実質単年度収支にしても4億、5億っていうお金が実際残ってきたわけだよ、収支上ね。その要因というものの分析、そのことをどのようにあれているのか、いろんな、さっき出たような報奨金の部分やいろんなあるんだけれども、確かに使っていないの、不用額で使っていないのもあるんだけれども、やはり全体としてこういう、今までの中ではない金額が出ているわけだから、そういう要因をしっかりと教えてくださいということ。

○総務課長（村木善幸君） 繰越金、剰余金の分析なんですが、まず歳入につきましては収入額は予算に対して実質マイナスの9,100万円程度になっております。これは、すみません、繰越特定財源が1億9,700万円ございますので、実質的には予算に対して1億600万ほど上回っているような形になります。この内容につきましては、当然町税につきましても職員が徴収努力をしているという内容と、あと、特別交付税につきましては3月の算定ということで、予算額の対象補正に間に合わない部分につきましては特別交付税が上回っているような状況になります。

それから、歳出につきましては、こちら、支出額は予算に対しまして5億8,700万ほど不

用額が生じております。しかしながら、翌年度繰越しが2億4,100万円程度ありますので、実質的な不用額が3億4,500万円程度ということで、この1億600万と3億4,500万で差引額が4億9,500万円ということになっています。

歳出のちょっと不用額が多いという御指摘があろうかと思えます。内容を確認しますと、令和3年度につきましては町長選挙が投票が行われませんでした。3月予定でしたので、補正に間に合わないということで、こちらの経費は不用額となっております。それから、やはりちょっと見込みが難しいものとして、扶助費です、医療費とかその辺、やはりちょっと予算漏れも避けたいということで、ちょっと扶助費の不用額等が生じております。それから、最近なのですが公債利子、借入れにつきましては低利率が続いておりますので、実質の借入れが低利率で借りられるもので、公債利子が執行が残となっております。それから、工事請負費につきましては、原則契約差金については減額するのですが、やはり工事内容によりまして、契約がもしかしたら生じるようなおそれがある工事につきましては、ちょっとそのままにさせていただいておりますので、その辺が不用額の内容となります。

御指摘のとおり収支を見た中でうちとして評価するのは実質収支比率、財政規模に対する比率ですので令和3年度は11.6%となっております。山田議員御指摘のように少し高いような傾向もございますので、やはりできるだけ適正な財政運営を図るためにも、今後はその辺のチェックを続けていきたいと思っております。以上でございます。

- 委員長（須佐 衛君） よろしいですか。ほかにありませんか。
- 11番（藤井廣明君） 今の公債費に関しての、ちょっと関連質問なんですけれども、具体的には残の、現在の残りの公債残高、それと、その先ほど利率がかなり安くなってきたというふうに言っているのですけれども、どれくらいの利率で回しているのか等に関してちょっと教えていただけますか。
- 総務課長（村木善幸君） 公債費の残高につきましては……。
- 委員長（須佐 衛君） 藤井委員、特にページ数とかは。
- 11番（藤井廣明君） 163ページです。
- 総務課長（村木善幸君） 町が今借りている残高という意味ですか、それとも、決算上不用額が出ている内容という御指摘……。
- 11番（藤井廣明君） 全体の借りている額。
- 総務課長（村木善幸君） 全体の残高。
- 委員長（須佐 衛君） 暫時休憩します。

休憩 午後 1時36分

再開 午後 1時36分

○委員長（須佐 衛君） 休憩を閉じ再開します。

○総務課長（村木善幸君） 町の地方債の残高につきましては、成果表の23ページを御覧いただきたいと思います。

こちらに、借入れ先別に地方債の借入残高のほうを記載してございます。令和3年度末の東伊豆町の地方債残高につきましては、48億8,617万8,295円となります。こちらでよろしいでしょうか。

それから、利率につきましては財政係長のほうが説明いたします。

○総務課財政係長（太田正浩君） 借入れ先によって、また条件によっても変わるのですが、最近こちらの、例えば町内の銀行さんで借りますと0.65、そして一番安い国からですと0.02%、いろいろ借りる年数ですとか条件もありますが、高いところ低いところですとこのような状況になります。以上です。

○11番（藤井廣明君） 分かりました。

○委員長（須佐 衛君） ほかにいかがですか。

○3番（稲葉義仁君） すみません、これも先ほど14番議員より実質収支等に関する質問があったかと思うんですけれども、2年ぐらい前からこの財調の繰入れの関係で大きくここのお尻の数字が変わってきているので、もう一つ、どうこの数字を捉えればいいのかという意味合いで、この2年間出ているこの収支上の黒字という部分が、その前と比べるとこれはコロナなんかもあるので、非常に単純に流れを捉えるのは難しいと思うんですけれども、状況としてはあまり変わらないと考えていったほうがいいのか、その辺って何か見解というか、意見はございますか。

○総務課長（村木善幸君） 財調への積立ての方法の変更につきましては、令和2年度に条例改正をさせていただきまして、改正前はこの決算書の167ページの地方自治法233条の2項、こちらの規定により積立てをさせていただいておりました。条例改正をやりまして、令和2年度より地方財政法7条による予算積立てということで、予算に提供した中で積立てをしているということで、金額は増えたのですが、変更になったのはそこが大きい部分があります。

それで、その単年度、実質単年度収支を見た中で、計算上はこの233条の2項で積み立てた部分については計算に入っていないもので、その分が収支に反映されていないということで、今度は地方財政法7条ですとその計算に入ってきますので、そこで収支が改善されたような形で数字的には見えていることで、そこが大きく変わった点かなということ。

○3番（稲葉義仁君） その状況を踏まえて、じゃ、通して見ると今の状況というのはあまり変わっていないのか、よくなっているとか悪くなっているとか、その辺に対する感触というのはございますかというところが聞きたいのですけれども。

○総務課長（村木善幸君） 一番明らかな数字としまして、財政調整基金の残高、こちらが一番分かりやすいものかなと思います。7億円台で推移していたものがこの令和3年度末では12億6,400万まで回復していますので、収支が改善されてきているなというふうには分析しております。これにつきましては、やはり地方創生臨時交付金、その辺をうまく活用したということと、普通交付税の算定のその辺の影響が大きいのかなというふうには思っております。

○3番（稲葉義仁君） そうですね、臨時交付金絡みで余計分からなくなっちゃっているんですけども、逆に言うところの財政調整基金が積み上がった部分の要因というのが、一番大きいのは多分そここのところのような気もするんですよ。という意味で言うと、決して今積んでいる財調で大丈夫と安心していただけるわけでもないなと、その辺、そういう意味合いで今の数字って、正直私たちもどう評価していいか、これで油断せず、やはり見ていったほうがいいのか、ちょっとよくなっているよとか悪くなっているよとか、その辺どうなんですかね。よく分からないですか。

○総務課長（村木善幸君） 財政調整基金だけを見ますと、大体県内の町の平均が標準財政規模に対しまして大体3割程度ということで、うちの財政規模が35億から40ですので、この差は大体10億ということで目標に掲げていたのですが、財政調整基金はこういう経済の状況です。あと、災害等もございますので、10億が一番の目標だったのですが、そういったものに対応するために、まだ積み増しが必要だなというふうには感じております。ですので、今回の決算後の残高は一応14億8,000万程度、この辺に見込んでおりますので、10億で安心するのではなくて、貯め過ぎもよくないと思いますので、その辺をちょっと見極めていきたいなというふうに思っております。

○委員長（須佐 衛君） ほかにいかがですか。

○2番（笠井政明君） すみません、成果表の10ページから11ページ、ふるさと納税をちよっ

と言っておきます。

大分今回寄附が、コロナ禍なのもあるし、ポータルサイトとかも増やしていただいたので実績としては出ているかなと思うんですけども、寄附額に対して基金の活用と経費的な部分、総括でちょっと経費がかかっちゃっているかなとか、あとは活用部分とか、ちょっと総務課としての御意見をちょっとお伺いしたいかと思いますが。総括というか、基本的な部分で、私も手放しで増えたね、よかったねという感じではちょっとできないかなというところがあって、意外とポータルサイトを増やしているからそのままついてきただけで、金額は上がっているけれども、経費が増えている分、このままでちょっとコロナが落ち着いて動きだしちゃうと、ふるさと納税が下がったときに経費がかかり過ぎちゃうのではないかなというのが私のちょっと考えなんだけれども、その部分はどうですかね。3年間の実績だけ見て今後どうするかというところはあるですか。

○総務課財政係長（太田正浩君） ふるさと納税の経費につきましては、おおむね、多くは寄附に対する何%というような形のものが多いです。楽天さんですとかふるさとチョイスさん。松阪電子計算センターに委託している経費などの1件当たり幾らというような形で、寄附が少なくなれば当然その辺りも少なくなる。もちろん固定の広告費等がありますが、そういったものが大半を占めますので、その辺りは心配は要らないかなとは考えています。以上です。

○2番（笠井政明君） そのこの部分はそうかなと思うんだけど、納税基金の活用ですよ。要は固定化してきそうなところで言うと、細野高原のイベントだったりとか道路等の整備事業とか、この辺が減ってきたときにどう予算を考えていくかということなので、決算上考えていけないといけないのかなというところがあって、イベント助成金とかはふるさと納税を充てていますかということもあって、ここの使い道はどう思っていますか。

○総務課財政係長（太田正浩君） この年のイベント等に充当する事業につきましては、前年、その前の年の寄附で集まったお金を充当しておりますので、その年に寄附が少なくなったからすぐ決算で大きく影響するということはありません。その結果は次の年にもうわかりますので、次年度以降はその寄附の状況によって充当をどこまでするかということは考えますので、下がってすぐ影響するということはありません。以上です。

○委員長（須佐 衛君） ほかにいかがですか。よろしいですか。

○11番（藤井廣明君） 52ページの決算の52ページの上のほうにある職員研修費の項目があるので、成果表なんかはちょっと、8ページなんか見ますと、割と地味と言いますか刈払機の取扱い安全とか、チェーンソーとかそういったものが割とちょっと多いのかな

と思うのですが、もっとそれ以外の、例えばいろんな行政に役立つようなものの資格を取るとかそういったものに対する補助とか、そういうものは今のところやっていないんですか、この中に入っていない。

○委員長（須佐 衛君） 成果表はこのページのことですか。

○11番（藤井廣明君） 成果表の8ページの上のほうに自主研修とか何か、先進地の視察とかそういうのがあるのだけれども、その中身がこれだけなのかなって感じなので。私はもっとあったほうがいいのではないかと考えているんですけども。

○総務課課長補佐兼庶務係長（鈴木文昭君） すみません、今の御質問なんですけれども、令和3年度につきましては職員の研修について、従来ですと県へ出向いたり、そういった研修が多かったのですけれども、コロナということもありまして、ほぼほぼオンライン研修に半分以上切り替わってきているような現状でございます。先ほどお話である自主研修について、こちらについては資格を取るに当たり、今まではやはり出先に出向いて研修を受けていることがほとんどだったんです。それがちょっと今できないということで、申請のほうが大分減ってきてしまっているんです。それで、令和3年につきましては自主研修は全部申請があったのがオンラインで研修を希望される方がほとんどでして、金額的にも旅費とか宿泊費がかかりませんので、経費としては安く表示されているのが現状です。

あと、職員の草刈り機ですとかチェーンソーの研修につきましては、安全衛生法に基づきまして業務で草刈り機等を使用する場合については安全講習を受けなければならないということになっておりますので、職員について順番に講習のほうを受けてもらっているような形になっております。以上です。

○11番（藤井廣明君） 了解です。

○委員長（須佐 衛君） よろしいですか。ほかにありますか。

○3番（稲葉義仁君） 成果表4ページになるのかな、職員採用の部分でここじゃなければ、別で聞いたほうがよければ言ってください。これ、ずっと長い間の課題で、また、公共施設の総合何とか計画でも技術職の確保とか育成という部分で苦戦しているけれども、そこはきちんとやっていかなければということになっているかと思いますが、その辺りでこの人事的な部分で令和3年度、何か努力したこととか、という部分は何かございますでしょうか。

○総務課長（村木善幸君） 専門職、特に土木です、これの採用につきましてはなかなか難しいということで、課題の一つということでいろいろと取り組みをしていたのですが、令和3年度におきまして待っているだけではなかなか状況がよくなるということで、町の出身



者でどういう職員がいるかなというのも、ちょっと公な動きはできないのですが、そういったことも取り組みまして、今年令和4年4月採用で土木職で2名を採用することがおかげさまでできました。ちょっと取組として表になかなか言えないというか、成果として出しにくいのですが、そういった努力のおかげで土木職については1人なのですが、1人は土木職は持っているのですが、ちょっと一般枠で入ってきたもので一般扱いなのですが、資格を持った人間を2名採用することができました。以上です。

○3番（稲葉義仁君） ありがとうございます。

○委員長（須佐 衛君） ほかにいかがですか。

○14番（山田直志君） 成果表の11ページ、さっきのふるさと納税の活用問題なんですけれども、印象ということでは、どうもうちの町のそのふるさと納税の充当事業って、何か何となく西伊豆とかいろいろほかの町では町長なり当局、案を作って議会と協議したりしているような感触がするんですけども、でも、うちの町は町長にお任せって言うと何か町長のポケットマネーみたいな使い方があったのではないかなと思うんですけども、この辺がさっき出たような問題で、やはり本当にふるさと納税として考えていく上では、もう充当の仕方についてはもう一回見直していくということが必要ではないかと思っているんですけども、いかがですか。

○総務課長（村木善幸君） ふるさと納税の活用方法という御質問なのですが、今回の補正予算でふるさと納税のプロジェクトチームが視察の旅費を計上いたしまして、承認いただいております。この視察につきましては、ふるさと納税の拡大だけではなく、活用方法、その辺もちょっと学んできたいなというふうに考えております。例えば、財政係長がちょっと検討しているのは北海道の上士幌町という町があるのですが、人口は約5,000で面積が9倍になります。最寄りの帯広駅まで車で50分というちょっと立地が悪い町なのですが、2014年に消滅可能性都市として挙げられておりますが、16年に人口は増加という判定をしております。取組といたしましてはふるさと納税を活用しまして、自動運転の実証実験であったり、経営、会社へのサービス確立ということで、先進的な取組をしています。そういった町を視察をした中で、うちの町に有効なものはあるかどうかという、まずはちょっとその辺も視察をさせていただきたいと思います。

活用につきましては、現在のふるさと納税の額ですと、なかなか思い切った施策に展開できない部分もありますので、まずは増額を図ることによりまして財政的に余裕というか、活用できる金額が増えたときに当然いろんな施策を検討した中で、議会の皆様にも図った中で

事業を展開していきたいなということで、今はその転換期ではないかなというふうに考えておりますので、御理解賜りたいと思います。

○14番（山田直志君） 今総務課長が言われたように、町長も替わったということと当局のほうからもこのふるさと納税を増やそうとか、また、活用の仕方を研究しようというような、そういうことができたということはとてもいいことだなというふうには思っているのですが、いずれにしても、ただ、我々ずっとこう見てきて、本当に道路の整備事業であったりとか、今までも体育館、体育センターとかね、本来であれば一般財源で普通やるべきだろうなと思うようなものが使われてきたということも考えると、やはり議会としてももうちょっとこの辺は、見直しについては私は後でまた意見や何かをつけてもいいのではないかなというふうに指摘しておきたいと思います。以上です。

○委員長（須佐 衛君） 特に答弁はよろしいですか。ほかにいかがですか。よろしいですか。  
（「はい」の声あり）

○委員長（須佐 衛君） ないようでしたら、以上で総務課、選挙管理委員会に対する質疑を終結します。

暫時休憩します。

休憩 午後 1時58分

再開 午後 2時15分

○委員長（須佐 衛君） 休憩を閉じ再開します。

これより質疑を行います。質疑の対象を企画調整課とします。

質疑ありませんか。

○5番（栗原京子君） すみません、成果説明表の33ページなんですけれども、長期お試し移住体験施設の件ですが、これ、実績、利用実績が1件ということでちょっと少ないなというふうに思うのですけれども、現在その物件というか、何件ぐらいあるのですか。

○企画調整課長（森田七徳君） これについてなんですけど、長期のほうは昨年度から始めまして、対象となっている物件は1件です。それでこれ、秋に開設したものですから秋に一人の方が6か月丸々入られたものですから、こういうちょっと実績になっております。以上です。

○5番（栗原京子君） これからこの物件というのは増えていく予定というか、見込みはある

のでしょうか。

○企画調整課長（森田七徳君） 増やしたいという気持ちはあるのですが、これはかなり空き家の持ち主さんにとっては安心というか、町が一度借り上げたものをお客さんに貸すという形なので、町が入っているのですごく安心で家賃が取りっぱぐれたりすることもなくて、安心な制度なのでもうちょっと町で物件の募集をしたときに反応があるのかなと思ったのですが、ほとんど反応がなかったものですから、この長期に限らずその空き家対策で、やはり掘り起こしのほうが、やはりちょっと一番の課題なのかなというふうに考えています。提供したいという方がたくさんいれば増やすということもあり得るのかなとは思いますが、以上です。

○委員長（須佐 衛君） ほかにありませんか。

○2番（笠井政明君） すみません、じゃ、成果表で申し上げます。31ページからちょっと見ていきたいと思えます。

多分、ちょっと予算の時のシティプロモーション関係とか、あとはワーケーションの推進事業、主にLDNの部分です。事業内容に関しては私も見させていただいています。ウェブページとかが充実していたりとか、まるごとオフィスのほうとかで実績が出ているかなとは思っておりますが、金銭的な部分で約600万ぐらいかけていて、1年というところで、ちょっとそれだと増えてはいるだろうけれども、ちょっと見えないところが、実績として見えないところがあると思うんですよ。どのようなちよっともうちょっと成果があったか、例えば、私が表面的なところで見ていると移住者、若者が増えているなというところはあるのだけれども、実際何人ぐらいでいるのかなとか、移住など、それともEASTDOCKの稼働率が上がっているのも聞いてはいますけれども、実際問題どのぐらいの稼働があるのかとか、600万円の広告というか、委託に対して実績としてはどのように考えているかちょっと教えてもらっていいですか。

○企画調整課長（森田七徳君） それについては、確かにその関係人口、最終的には関係人口を増やしたいということで、ちょっと見えにくい部分があるのかなというふうには思います。企画で把握しているものだけだと、例えば昨年度、昨年度に、例えば役場から徒歩6、7分圏内に11人ぐらい20代の若い人たちが移住をしてきたりだとか、中には他拠点ということで住民票を置いていない人もいますけれども、11人の若者はほとんど住民票も移してくれているような状態であったりですか、EASTDOCKについても令和2年度は年間で112人の利用だったのですが、令和3年度がそれは221人ということで、令和2年から令和

3年にほぼ倍増しております。実数でも90人ぐらいの方が使われているということですので、確実に関係人口としては増えているのかなというふうに感じます。

ただ、ちょっとその見えない部分があるので、ちょっとまだ、全く具体的にどうしたらいいというのがあるわけではないのですけれども、できれば何かそういった、関係人口を見える化するようなことが将来的にはできるといいのかなというようなことを考えております。以上です。

○2番（笠井政明君）　そうですね、やはり私達もそうだけれども、見えない部分もあるのだけれども、何となく増えたよねという雰囲気感はあるので、やはり町民からすると、その金額の部分云々かんぬんも見えないところ、本当に興味がある人しか、多分予算かけてこういうのを周知しているんだよというのを知っている人って少ないかなと思うので、今後のステップとして関係人口を増やしながらか、地域との関わりだったりとか、ちょっと聞いたのはあの若い子というのは何だよという声が、やはり多少なりとも聞こえたりとかするので、何かその辺を、せつかく予算をかけていい取組で増えてきてはいるので、何となく地域とつながれるようなことを今後やっていってほしいなというのが一つありますので、継続していくんでしょうねというところです。

もう一つちょっと聞きたいのが、成果表の33、空き家店舗のところ。私達も知ってのとおりですけれども、去年あの改修してもらったMORIEができたのですけれども、ここにも書いてあるんですけれども、一棟貸し、合同会社s o - a nに貸してやっていくよという形なんだけれども、ここの貸出しだったりとか、あとはこういう企画だけではないのであれなんですけれども、町が所有していたりとか町が関与していた施設を、例えば地域おこし協力隊とかで今年から熱川とか奈良本けやき公園とか貸していたりとかするじゃないですか。管理なのかな。そこで商売をするよとかしないよとか、これもそうなんですけれども、何となくその部分のルールというのがグレーな気がするんですよ。これに関しても、じゃ、幾らで貸していて、その収入はどうなるのかという部分があると思うんです。例えば、町のものであれば、じゃ、その収入、貸出しはするので管理は、その管理費は払うんだけど、じゃ、収入は全部町に入るのかという形で、それとも賃貸料で払っていてそっちで儲けてもらうのか、そういうルールがちょっと曖昧なんですけれども、その辺はどのように考えていますか。

○企画調整課長（森田七徳君）　MORIEについては、月額1万4,300円でs o - a nのほうに貸出しをしております、s o - a nのほうで事業として営利事業プラス関係人口を増

やすような、その大学生が活動するときに安く泊まってもらったりだとか、というような事業で自由に、できればそこで儲けてもらいたいと。ただの営利事業ではなくて、なおかつ地域振興の役に立つようなことをしてほしいということで、家賃で貸して営業自体は自由に s o - a n のほうでやってもらっています。

その関係人口を増やす拠点だとか、そういう趣旨もありますし、これについては地域おこし協力隊で3月に卒業した藤田君がここの今管理をしまして、藤田君にはここで何とか生活できるだけ稼いで定着してもらいたいというようなこともあって、そういった形態をとっております。けやき公園は今年度からということにはなるのですが、もともとが農水の関係の補助金で造った施設で、今で言うと建設整備課の持ち物ということになるのですが、ちょっと長らくうまく利用がされていなかったということなものですから、この3年間で取りあえずは地域おこし協力隊にいろいろ試してもらって、できればあそこも、今でも多分年間100万円以上管理費がかかっている場所だったので、町とするとその管理費はできるだけかけずに地域の人が集うような拠点にして、なおかつできれば地域おこし協力隊が卒業後にそこで生活できるだけのものにしてほしいという気持ちがあります。

そういった中では、以前も御指摘を議会からいただいたと思うのですが、条例上の今ちょっと曖昧な建設整備課の管理なんだけれども、今企画調整課のほうで運営を考えているということで、これは予算のこととかその条例のこととか、そういうようなことでちょっと今おっしゃったようにグリーゾーンというか、の部分があるので、この3年間のいわゆる実証実験だとか地域おこし協力隊が活動する中で方向性をきちっと定めて、方向性が定まれば予算の整備ですとか条例の改正ですとか、そういうことまでしていきたいというふうに考えております。以上です。

○2番（笠井政明君） 了解です。

何かと言うと、ここでちょっと話をさせてもらったのは、やはり町民の中から町の持ち物をあいつら、安くとか簡単に言うと使って金儲けができるじゃんねと言う話が、丸儲けだよねという言い方は悪いですが、というふうに思っている人たちが結構いるということです。だから、その部分でグレーと言ったのが、オープンにしていけないと、じゃ、例えば1万4,300円でこれ、貸してくれるでしょという話で、うちもやりたいんですけども、と言ったときに同じようなことを、じゃ、s o - a n と同じようなことでうちはもっとよくできるよ、じゃ、1万4,300円で貸してねという人たちも出てこないことはないのかなど。なので、この金額で貸し出す根拠とか言うところ、例えば、一般で貸したら基本的に賃借料

で1万4,300円って課長が言うようなところがあるにしても、金額だけで言ってしまえば安過ぎるのではないのというところがあるので、前から私も言っていますけれども、予算計上の段階でもし、その部分があるのであれば補助として、プロモーション料ではないけれども、出しておいて賃料は取っていかないと、今後s o - a nがちょっと降りますと言ったときに、また運協が出てこなかったりとか、本当に一般企業が入ってきたときに安く借りてラッキーという話になっちゃうんで、ちょっとその辺は考えていただきたいなと思いますのでお願いいたします。

○企画調整課長（森田七徳君） やはりその田舎の、ちょっと自分は田舎のその問題点として、誰かが儲けていると何か気に入らないみたいのところって結構あって、そういう声ももしかすると今後いろんなところ出てくる可能性はあるのかなというふうに感じているので、ちょっと今笠井議員がおっしゃったようにそういうときにしっかりと説明ができるような、理論武装ではないですけども、そういったことについては、ちょっと今後しっかり考えたいなというふうに思います。以上です。

○委員長（須佐 衛君） ほかにありますか。

○1番（楠山節雄君） 決算書のほうのちょっと予算の関係でお聞きしたいと思うのですが、これは企画に限らず総体的にコロナ禍で実施ができなかった事業だとかの関係もあつたりして、不用額が出ているのかなと思うのですが、56ページの需用費なんですけれども、この辺も予算計上するときの関係が甘かったのか、それともさっき言ったようなコロナの影響なのか、200万ぐらいの不用額が出ています。前年もやはり同額ぐらいの、予算措置の中で同じように不用額が出ているんですけども、この辺の不用額の内容をちょっと教えていただけます。

それと、60ページ、決算書の。委託料の関係も10%を超えるような不用額ですので、この辺、2問ですのでこの辺までちょっと不用額の内容を教えてくださいませんか。

○企画調整課管財係長（中田光昭君） 不用額ですけども、昨年度からある程度の金額を設定して、それ以下の金額であればセーブして下げないというような方向性で今、予算づけされていて、積み重なるとこの金額になるのですけれども、個々の不用額というのはそれほど多いものでもなくて、特に庁舎管理については電気の使用料だとか、そういったことが多数を占めておりますので、節約をすればその分不用額が大きくなるというふうになりますので、特に突出して一個が不用というわけではないので、御理解いただければと思います。

○1番（楠山節雄君） そうすると、不用額ですのでいろんな項目というか、項目があつて、

それらが積み重なってきてこの金額ということで、個々には少ないということで理解を  
よろしいですか。

では、委託料のほうの関係は分かります。

○企画調整課地域振興係長兼企画係長（山田勝之君） 60ページの委託料の不用額390万円の理由です。事業コード8の総合計画策定事業というのがありまして、人口ビジョン策定支援委託料、こちら予算が440万ほどあったのですが、実際契約額が160万6,000円という形で、こちら補正で落とさなかったのは3月中旬まで履行期間がありましたので、その間に変更等があると困るという形でこのような予算案を出させていただきました。以上です。

○1番（楠山節雄君） 分かりました。では、この辺は予算執行の関係上待たされざるを得なくてこういう形になったということで理解をしました。

18の負担金及び交付金、これも項目いっぱいあるのかどうか分からないのですが、全体的に予算の金額に対して357万2,000円というのは結構の割合で補助金等が残っているのですが、これらは例えばコロナで事業執行できなかったことによって補助金等の支出が抑えられたのかどうなのか、この辺内容をちょっと教えていただけます。

○委員長（須佐 衛君） 楠山委員、ごめんなさい。何ページ。

○1番（楠山節雄君） 60ページのところ。負担金及び交付金。

○企画調整課長（森田七徳君） これについては、結婚新生活の補助金、負担金については大体予定どおり支出されるのですが、補助金については結局、去年は特に町長選挙の関係で最終の予算編成がかなり前倒しになっているということもあるので、補助金関係は最後のタイミングまでどこで補助金がぽっと出てくるのかも分からないので、補助金については減額補正というのはほとんどしていないものですから、その積み重ねですけれども、大きいものとするとも結婚新生活だけでも予算が100万円ぐらい残っていますので、こういった提出されるかどうか分からない補助申請については減額しないというような内容になっておりますので、そういったことによるものでございます。以上です。

○委員長（須佐 衛君） ほかにありますか。

○11番（藤井廣明君） 54ページのCATV等広報事業です。この委託料、文書広報費の委託料の中の、この117万3,000円に関して、これはハイキャットだけですか。それともこのほかのメディアはありますか。

○企画調整課情報係長（岩崎名臣君） ハイキャットのほうと、あと、IKCの2つがあります。内訳につきましては、成果説明書のほうに載せてあります。28ページです。

○11番（藤井廣明君） 全所帯の大体何%ぐらいカバーできているかというふうな調査をしたことはございますか。

○企画調整課情報係長（岩崎名臣君） すみません、調査はしていません。

○委員長（須佐 衛君） ほかにありますか。

○1番（楠山節雄君） 成果表の27ページですけれども、広報の関係で前年の成果表の中にはふるさと便みたいなのがあったのですけれども、今年はその辺が採用されていない、4名程度だったと思うのですけれども、この人たちが終わってしまったのか、それともネットあたりへ移行させるみたいなお話だったと思うのですけれども、前年度のとき、そういう形が取られたのかどうなのか、それによって減ったのか教えていただきたいのと、28ページのこれ、ちょっと聞いたかも分からないけれども、ちょっと忘れたものですから再度教えていただきたいのですけれども、庁舎の維持管理事業3,900万ぐらい金額、全体的な執行額、負債がされていますけれども、その下に主な委託事業ということで、金額も含めての記載があります。これらを集計をしても、とてもこういう数字にはなっていないのですけれども、何か大きな金額で見えないものがあるのか、それとも小さなものが積み重なったものがこの中に載っていないよということなのか、その辺ちょっと教えていただけます。

○企画調整課長（森田七徳君） まず、広報紙の関係ですが、これはその実績が少ないので成果説明書に載せるほどのものではないので、削除するよということ自分で自分のほうに担当のほうに指示をして削除したものですので、去年と同じような数はやっているはずですよ。

あと、庁舎の維持管理の関係は、工事は別に別途後ろに報告する様式になっているものですよ。工事はそのほうに載せてあります。

○企画調整課管財係長（中田光昭君） あと、庁舎維持のほうの光熱水費は800万円とか、修繕料が370万とかあっておりますので、そういったものを含めると、やはりこのぐらいの金額になるという形になりますので。

○委員長（須佐 衛君） 1番、よろしいですか。ほかにありますか。

○12番（鈴木 勉君） 成果表でちょっとお尋ねしたいんですけども、もし、先ほど質問がかぶったらごめんなさいね、私のほうもちょっと聞きたいことがあるものですから。

成果表の32ページ、お願いできますか。よろしいですか。

このワーケーションの推進事業の関係でちょっとお聞きしたいのですけれども、ここに書いてございますローカルデザインネットワークのほうに委託料が払われているわけなんですけれども、その事業実績の中でいろいろ書いてございますのですけれども、これの内容につ



いては私たちは見る事ができるんですか。どこかにこれ、発信しているような形で書いてあるんだけども。

○企画調整課長（森田七徳君） これは、ウェブサイトについてはどなたでも見る事ができますが、それ以外のことについては、例えばモニターツアーだとか、東京でやったイベントのことについては、特にちょっと今、誰でも見られるような形にはなっておりません。

○12番（鈴木 勉君） その次に、お試しの居住事業があるんですけども、ここにあります短期とか長期の方たちにはここにお泊りになった実績は書いてあるんですけども、この人たちは所有者との交渉したりする、もちろん買いたいとか、これを借りて住みたいなどかという、そういう実績というのはあるんですか。

○企画調整課長（森田七徳君） 短期のほうはこれは借りたり買ったりということはできない性質のものです。長期のほうは気に入れば持ち主と売却なりそのまま賃貸で借り続けるということが可能な施設になっております。去年は、ちょっと先ほど言いましたが、半年間、初めてやってみて半年間入ったので、利用件数と言うと1件ということで、この方たちも2か月程度の延長は希望したのですが、大家さんのほうから普通賃貸というので大体2年単位ぐらいなので、2か月だけ延長して、その後借りてもらえないのだと困るのでということで、2か月の延長について大家さんから断られたような経過がありますので、そういったことは希望があれば大家さんと施設を利用した方でいろいろ交渉していただく余地はあるというような仕組みになっています。

○12番（鈴木 勉君） 今の説明は分かったんですけども、それに実績として何人か、一人でとか二人でとか、この町のそういう形で賃貸して住んでいるとか移住してきたとかという実績はありますか。

○企画調整課長（森田七徳君） 町のお試しの移住体験施設については去年の秋から初めて、その秋からの6か月間借りた方が1名だけなものですから、これ以外の実績は特にはございません。

○12番（鈴木 勉君） まだないのね。続けて別の質問をしていいですか。

2問と言われているからあれだったけれども、またちょっと間をおいてやります。

○委員長（須佐 衛君） そうですか。ほかにありますか。

○11番（藤井廣明君） これは66ページになりますけれども、総務費の中の諸費、諸費の下のほうに投資及び出資金というのが23番になっております。その中の町有原野の貸付料の収入白田区配分金1,000万円と、それから風力発電事業の出資金2,100万というのがあるかと思

うのですが、その内容をお聞かせいただきたいのですが。

○企画調整課長（森田七徳君） これについては町有地、白田財産区の99か年用地についてGPS Sに貸付を行い、その土地代を収入にしてそれを1,000万円を白田区に、1,100万円を出資金にということで、支出したものです。以上です。

○11番（藤井廣明君） これの出資先というのはどこなんですか。

○委員長（須佐 衛君） 今答弁ありましたよ。

○企画調整課長（森田七徳君） 出資先はGPS Sが出資してつくる特別目的会社のほうに出資をしております。以上です。

○委員長（須佐 衛君） ほかにありますか。

○11番（藤井廣明君） そうしますと、今GPS S社が出資して作った特別会社だというふうに申されましたのですが、具体的に面積はどのくらい貸しているのですか。

○企画調整課長（森田七徳君） この件については今まで様々な経緯で詳しく説明をしてあるものですから、特にちょっと面積等の詳細な資料は今回持ち合わせておりません。

○委員長（須佐 衛君） 質問が1回につき2問ということで、2回ということで。

○11番（藤井廣明君） 分かりますけれども、委員長、今の、手元に持ち合わせていないということですので、これは後で示していただけるのですね。

○委員長（須佐 衛君） 暫時休憩します。

休憩 午後 2時43分

再開 午後 2時47分

○委員長（須佐 衛君） 休憩を閉じ再開します。ほかにありますでしょうか。

○12番（鈴木 勉君） 成果表の36ページをお願いします。

一番上にあります地域公共交通の対策事業費についてちょっとお伺いしたいなと思うんですけども、その東海バスのほうとの委託契約の中のこの計上されています1,544万3,000円というのは、これは当初予算から比べると減額になっているんですか。

○委員長（須佐 衛君） 36ページですね。

○12番（鈴木 勉君） 成果表の36。

○委員長（須佐 衛君） 暫時休憩します。

休憩 午後 2時48分

再開 午後 2時48分

○委員長（須佐 衛君） 休憩を閉じ再開します。

○企画調整課長（森田七徳君） 当初予算の運行委託料が予算額が1,776万円でしたので、当初予算と比べると決算額が減っているということになります。

○12番（鈴木 勉君） 決算額は増えているの、減っているの。

○企画調整課長（森田七徳君） 減っています。

○12番（鈴木 勉君） 減っている。この減った要因としては、この下の部分の内容を読むと、土曜日と日曜日と祝日は取りやめたからというのがその要因だろうと……。

（「これは令和4年から」の声あり）

○12番（鈴木 勉君） 分かりました。取り下げます。

○委員長（須佐 衛君） よろしいですか。ほかにありますか。

○10番（内山慎一君） 成果表30ページの真ん中のアスト会館の管理で808万6,862円、実際には今使っていない体育館とプールの関係と、それから源泉の維持費が主だと思うんだけど、その辺の内訳と、それで、今後もこれだけのものが上がってくるのかどうか、それをちょっと教えてもらいたいのだけでも。

○企画調整課長（森田七徳君） アスト会館が閉じているんですが、800万円からのお金がかかっているということだと思うのですが、昨年度は30ページにあるのは委託料、委託事業のみでして、それ以外に高圧受電設備の工事のほうを将来の取壊しを見越して工事を行った関係で、その工事の金額が大きいということで、それ以外の委託料についてはここにある維持費程度で済んでいるということになります。693万円ほどその高圧受電設備の工事にかかったものですから、それで合計で800万とちょっと大きい金額になっているような状況です。以上です。

○10番（内山慎一君） では、そうすると今年度あたりは200万程度の維持管理費程度になるということですね。そういう解釈でよろしいですか。

○企画調整課長（森田七徳君） 結構です。

○10番（内山慎一君） 分かりました。

○委員長（須佐 衛君） ほかにありますか。

○3番（稲葉義仁君） 成果表30ページの、しつこくてすみません、公共施設等総合管理事業の部分で、管理計画の改定をされたというところで、個別施設計画の内容を反映しながら基礎データについての再整備を行ったとありますけれども、個別、まず個別の施設計画は全ての施設について作ったということによろしかったんですけど。

○企画調整課長（森田七徳君） 個別施設計画については作成済みです。

○3番（稲葉義仁君） この個別施設計画ってどういった内容なのかという部分と、多分それと絡むと思うんですけども、下の基礎データの再整備というのが具体的にどんな感じだったのかなというのを教えてもらってもいいでしょうかね。

○企画調整課管財係長（中田光昭君） 個別施設計画ですけれども、一応平成29年から令和38年の40年間で4期に分けて、10年ごとに1期に分けて、その期間に施設のどういう方向性を持っているかというのをおのおの施設において作成しております。

（「基礎データの見直して」の声あり）

○企画調整課管財係長（中田光昭君） 特にデータなんですけれども、公開点の今、固定資産台帳のほうを整備していきまして、基本のその金額をその固定資産台帳ベースで試算をするような形で今回改定しましたので、大分項目が変わっているような形になっております。

○3番（稲葉義仁君） よく分かりました。

この個別施設計画というのが逆に公共施設等総合管理計画の中では、これを基に改廃を判断していくみたいな表記になっていたような気がするんですけども、そういうことなんでしょうか。

○委員長（須佐 衛君） 暫時休憩します。

休憩を閉じ再開します。

○3番（稲葉義仁君） 休憩してもらっていいですか。

○委員長（須佐 衛君） 休憩しますか。暫時休憩します。

休憩 午後 2時54分

再開 午後 2時57分

○委員長（須佐 衛君） では、休憩を閉じ再開します。

○3番（稲葉義仁君） では、別のでもいいですか。もう1個。

同じく公共施設等総合管理事業の部分で、これ、総務課のほうでもちょっと伺ったのですが、技術職員、逆に総合計画の中ではこの施設に関する情報の共有を図る必要があるという意味合いで、以前のもものでは将来的にはそういったものを統一して管理する専門部署、今回のものではたしか、そういったものをきちんと集約して管理できるような仕組みをちょっと考えていくというような表記になっていたかと思えますけれども、その辺について何か、この令和3年度について特に施設の情報という部分では何かそういう動きは、固定資産台帳の整備ぐらいになるのでしょうか。

○企画調整課長（森田七徳君） 今おっしゃられたようにそれぞれの課がバラバラに施設を管理しているものですから、管理の水準をどれぐらいになったら補修するのとかということですが、ちょっと基準がバラバラなので、施設管理の計画自体はそういう意味もあって一応作ってはおります。ただ、令和3年度について何か具体的にそれに基づいて何かをやったかという、令和3年度は特には実施はしてありません。

○委員長（須佐 衛君） よろしいですか。

○3番（稲葉義仁君） 先ほどの奈良本のけやきの件なんかもありましたけれども、管理が分かれていることで不合理な部分等も出てくると思うので、どこに誰に、誰が集約するかという部分で難しい部分はあるんですけども、少しずつでもその辺は集約というか、整理をして上手に使えるように御検討いただければと思います。以上です。

○企画調整課長（森田七徳君） 今その行政財産は各課がやっていて、普通財産だけ企画でやっていてということもあるものですから、ちょっとこの財産の管理については、町の財産の管理の規則等の改正も必要ではないかというようなことを監査のほうからも指摘もされておりますので、その辺については少し、今後抜本的に検討していく課題になるのかなというような問題意識を持っております。

○委員長（須佐 衛君） ほかにありますか。

○1番（楠山節雄君） すみません、細かいことを1点と、あと1つは、ちょっとこれは大まかなざっくりとしたことなんですけれども、ページ38ページの庁舎用地の購入の関係なんですけれども、今返還、返還というか所管がされているんですけども、この辺は課長、あれですか、契約の中にそんなことが多分うたわれていないと思うんですけども、今は工事、地価価格がすごい下落をしているじゃないですか。そうした中でこうした取得金額のその情勢によって見直しをするみたいな、そういう内容にはなっていないのかなということ、多分

なっていないのかなと思うんだけど、その辺ちょっと確認をさせてください。

それと、ページ三十六、七ぐらいに基幹システムの管理、情報システムの管理等の部分があるんですけども、コロナで例えばシステム改修だとか、いろんな改修事項がいっぱい出てくると思うんだよね。そのたびにすごい大きな金額が、支出がされていくということで、企画あたりでこうしたことに対応する専門職、技術職の職員を、技術職、難しいのかも分からないけれども、そういう職員を配置をして、ある程度の簡易な部分については対応できるという、そんなことの検討だとか考え方だとかはしたことはありませんかね。この決算書を見て思ったんだけど。

○企画調整課長（森田七徳君） まず1点目の庁舎の購入事業については、ちょっと契約書の内容を見て見ないと分からないものですから、ちょっとまた確認をしたいと思いますが、令和6年度で支払いは終わるものですから、ちょっと見直しができるかどうかというのはちょっと分からないというのが現状です。

それともう1点、システムの関係については、コロナの関係で庁舎内にもWi-Fiを入れたりだとかという、そういう面での新しい仕事が出てきたり、あと、国がいろいろ言っていることに対応しなければいけないということで、今現在専門職の職員が一人いて、その職員、民間から移ってきた職員でかなり技術力のあるレベルの高い職員なんですが、その職員にかなりの負担がかかっていると。今後、今国が打ち出している基幹システムの標準化だとか、そういったことにも取り組まないといけないものですから、おっしゃるように役場としての課題観としては、その職員もそんなに若くはないものですから、将来のことを考えると心配だなというのはあります。ただ、民間の中でもこういった職員が取り合いに、企業の間でもなっているものですから、ちょっとなかなか役場の今の給与体系ですとかを考えると、うまく何かUターンしたい人を見つけるとかということしかないのかなということなんです。今楠山委員がおっしゃったような課題観というのは自分としても意識はしております。以上です。

○委員長（須佐 衛君） よろしいですか。ほかに。では、すみません、私。

温泉ですね。源泉のことについてちょっと。一番最後、財産に関する調書というところをお願いします。百七十七、八というところですけども、源泉の数が6本という話があったと思うんですけども、町のその財産ということで源泉なんかも考えられると思うんですけども、ちょっと私が見たところ記述がなかったような気がしたものですから、その辺のところはどういうふう考えられているのかお聞きしたいのですが。

○企画調整課長（森田七徳君） 財産の調書に鉱泉地という地目がないのはなぜかということですか。

ちょっとその点については、多分財産に関する調書が過去からの経緯の積み重ねなものですから、今ちょっとここに項目として鉱泉地という項目がないのはなぜかということは、ちょっと分かりかねます。

○委員長（須佐 衛君） ということは、源泉が、その町が持っているその財産という概念がないという感じになるのかな、そうすると。

○企画調整課長（森田七徳君） 財産という概念がないということではないと思います。もともとが鉱泉地がない、例えば様式を使っていたのでちょっとここに出てきていないものなのか、その辺はその過去、多分町が鉱泉地を所有してから相当年数がたっていると思うので、それが財産に関する調書に載っていないという、それかほかの地目に含まれているのかとかということは、ちょっとなかなか調べようもないのかなという感じがします。

○委員長（須佐 衛君） そうすると……、分かりました。  
ほかにありますか。

○12番（鈴木 勉君） 成果表の34ページをお願いできますか。

その中に総合計画の事業がございます。この事業の内容についてちょっとお聞きしたいのですけれども、この会社はこの委託して、基礎のデータとしてこの、こういう調査をしてもらいますよという形のお金なんだけれども、この会社にはどういう状況だとこれだけ減りますよとか、こういうことをしたら人口の減少を防げますよとかという、そういう内容は折り込んであるんですかね。

○企画調整課長（森田七徳君） これは、シミュレーション、人口の話だと思うんですけども、シミュレーションをしておりまして、このまま普通に放っておくと何人になるよ、あと、例えばシミュレーションとしては一人の方がお産みになる子供の出生数が、現状で行くとこれぐらいになっちゃうけれども、少し増やすと2042年にこれぐらい持ち上がるのではないかとかというようなシミュレーションのほうがこの委託の中で実施をしています。

○12番（鈴木 勉君） 私なんか単純に考えると、こういうところに頼まなくても、今の状況を考えればこういう人数の減少というものは、今の時代は考えることができるのではないかなと思うんです。これだけお金を使わなくてもね。これだけのお金を使って調査するには、やはりこういうところを町は改善していけば人口の減少が少なくなりますよとかという、そういうアドバイスのものというんですか、そういうものがあるとうれしいなと思うだけ

れども、こういう事業を委託するにはね。

○企画調整課長（森田七徳君） そういった趣旨のコンサルティングみたいな、そのこういうことをしたらいいんじゃないかという提案をするのであれば、その総合計画とか総合戦略をつくる際の委託に入れるということにはなると思うのですが、ここではその総合計画をつくる前段階として、客観的にあるいはさっき言ったようなシミュレーションでどれぐらいの人口が減っていくのかということを予測していただくというようなことだけを委託をしているものですから、当然そういうことまで全部委託すると、さらにプラス500万とかという話になるので、総合計画が昨年度延期になったのですけれども、延期にしてどうするかというところまでちょっと決まっていなかったものですから、まずはその人口ビジョンは総合戦略にも総合計画にも必要になるだろうということで、その部分だけを抜き出して昨年度は委託したというような内容になっております。

○委員長（須佐 衛君） よろしいですか。ほかにありますか。

○2番（笠井政明君） すみません、成果表の34で金額、決算だからあれなんですけれども、ここ、このコロナウイルス感染症対策でLINEとかネット環境とかうまく使ってやってもらったと思うんですけれども、この中で前も言ったかもしれないんですけれども、コスモキャストとかとの兼ね合いとかを今後どうしていくのかと、ちょっとこれも聞いたかもしれないんですけれども、ランニング的な部分って今後もこの辺の管理とかはLINEに関してとかはこのSBSが今後も請け負うということですかね。

○企画調整課長（森田七徳君） コスモキャストとの兼ね合いについては、防災的な観点からいうと、なるべく情報配信を多重化したほうがいいんじゃないかというようなこともあると思います。ただ、コスモキャスト、どれぐらいの方が使っているかというのを自分はちょっと把握していないんですけれども、本来であればこの4月から別途導入したLINEとかに集約をしていったほうがいいのかなというふうに個人的には考えています。

ランニングコストについては、これは無線LANの関係についてもLINEの関係についても、この委託料の中に機器のリースですとか保守ですとかというのは5年間分を見込んだ数字になっておりますので、5年経過して6年目からはそういった費用が発生してくるということになっておりまして、そういった費用がどれくらいかというのをこの導入時には一応検討して、概算のほうは計画で出してもらってあるということになります。LINEについては、引き続きSBS情報システムのほうが管理をしていくというような内容となっております。以上です。



○2番（笠井政明君） 今回このコロナウイルスの補助金でうまくやれたのであれなんですけれども、さっき言ったコスモキャスト、防災面で導入が向こうが先で、今回はLINEでというところで、LINEに関しては課長からも導入のときにあったけれども、クーポンだったりとか幅があるというところで一定は分かるんですけども、導入してもらってここまでの間で、やはり町民の声としてはコスモキャストはコスモキャストで防災で必要だよ、入れている。スマホ持っていた人は入れている。今回もLINEでメールが来たからLINEで入ったほうがいいよと言ってLINEでやったら、結局同じものが同時刻に2つ来るよねと。これ、何かピコピコ鳴ってどうかならないのという話が、やはりあるので、その辺はちょっと防災関係とうまくやって、音声聞こえるよとか悪いとかもあるかもしれないのだけれども、メール関係のところとかが似たようなものが来たりとかするので、ちょっとその辺はうまくやっていただきたいなというところと、ここはちょっと予算、決算にあれだけれども、実際庁舎内のネット環境を構築してもらって、業務ってどうですか。かなりよくなりました。ローカルグループのWANから外部できるようになったので、仕事がちょっとあれかなと思ったんですけども、実際使ってみてどうなんですか。

○企画調整課長（森田七徳君） 今のLINEのほうは確かにLINEだけで発信するときと情報発信メール経由でLINEを入れてくるという設定をしていただいている方が両方入って来る。プラスコスモキャストも入って来るということで、LINEについてはうちのほうにも何とかならないのかなみたいな問い合わせが時々来て、それは情報配信メールをLINEと統合すれば解決するんですけども、ちょっとコスモキャストの取扱いについては、ちょっと自分だけでは判断ができないものですから、ただ、おっしゃることは自分の耳にも届いているものですから、ちょっと考えてみたいと思います。

この庁舎内のネットの環境なんですけど、一番入れておいてよかったなというのは、やはりコロナでウェブ会議がすごく増えていまして、これを入れるまでは庁舎内の2か所でしかウェブ会議ができないような状況でした。直近ですと、今週が1週間で16件、先週12件、先々週は22件ウェブ会議が各課で行われるものですから、もし、この、この状況であれば会議室さえ押さえればどこでもLANが使えるので、どこでもウェブ会議ができるという状況になったので、これについてはすごくやっておいてよかったのかなというふうに思います。また、町の業務で使っているLANとは全く切り離されているので、職員がスマートフォンとかノートパソコンとかタブレットを個人的に持ち込んで自分の席で、座席で調べ事とか資料等を検索したりとかということができるようになったものですから、そういう面でも効果

があったのかなというふうに評価をしております。

○委員長（須佐 衛君） ほかにありますか。

（「なし」の声あり）

○委員長（須佐 衛君） よろしいですか。

（「はい」の声あり）

○委員長（須佐 衛君） ないようでしたら、以上で企画調整課に対する質疑を終結します。  
暫時休憩します。

休憩 午後 3時15分

再開 午後 3時19分

○委員長（須佐 衛君） 休憩を閉じ再開します。

本日の会議はこの程度にとどめ、延会したいと思います。御異議ありませんか。

（「異議なし」の声あり）

○委員長（須佐 衛君） 異議なしと認めます。よって、本日はこれにて延会することに決しました。

なお、次回12日は午前9時半より会議を開きますので、よろしくお願いいたします。

それでは、延会します。

延会 午後 3時19分